
雪恋し、夏の空

モヨ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪恋し、夏の空

【Nコード】

N1406M

【作者名】

モヨ

【あらすじ】

とにかく夏が苦手な木谷真木、二十六歳、独身。そんな彼女の夏がたちまち華やかに色づいていく。ある特別な夏のお話。

シンと静まり返る白銀の世界。
屋根からおりる透明な氷柱。
はらはら落ちる雪。

懐かしい。

戻りたい。

あの冬に。

夏は嫌いだ。

暑いし蚊には刺されるし、台所にはGではじまる私の天敵がしばし

ば現れる。

夏の何がいいのか、私にはさっぱりわからない。からからに乾いた晴天が続いたかと思えば、ソフトクリームみたいな雲が突然大雨を連れてくる。

「今年も夏が来てしまった…」

そう一人つぶやく私の前に広がる果てしない青。思わず目を細める。

嬉しいんじゃない、ただ眩しい空が憎いだけだ。

「木谷さん。今年も夏が来ちゃったね。」

「原田主任：笑い事じゃありません。」

抑揚のない声に振り返ると、私の三步あとを歩く原田寛太主任がニヤニヤしながら更に続けた。

「そんなに眉間にシワよせないの。木谷さんは本当に暑がりさんだよ。」

彼の語尾を伸ばす癖に、背中がピリピリする。

ただでさえ熱い頭の温度をこれ以上あげられてたまるか。

私は（一応）上司である原田主任を置いて、再び歩き出す。

某大手製薬会社の営業課に勤める26歳、ちなみに独身。

顔も家柄も出身校も、何もかもが普通の女：ただし胸のサイズは普通以下。

世間で言うところの“中下”くらい？

『一夏の恋』だとか『アバンチュール』だとか、そういう華やかなフリースが不似合いな女：それが私だ。

花火に祭りにビアガーデン：とにかく夏のお楽しみに魅力を感じない私に、夏はひたすら苦痛なだけ。

ああ、冬に帰りたい。

「二十五度だっけ？」

「…それじゃあとつくにアウトです。二十度ですよ、二十度！」

「ああそうだ二十度だ。じゃあ今日はとつくにアウトだね」。最高二十六度だもん。」

「主任：実は今現在午前十時で既に気温は二十一度ですよ。もうダメかもしれません…」

「何言ってるの」。頼むよ。木谷さん成績いいんだからさあ。」

…原田主任は覚えていた。木谷真木、一生の不覚を。

『わたし二十度超えるとだめなんです。たちまち気力、体力、食欲ともに急降下。まっさかさま。だから何も食べらんなくてポカリとリンゴで生きてきました。』

一年前の夏、まくしたてるようにそう言っただけ私は炎天下の道路で気を失った。

同行していた原田主任は、とても動揺した。

慌ててコンビニで手に入れたポカリと解熱シートで、必死に私を看病してくれたらしい。

…公園の噴水の横で。

「普通そこは、涼しい建物の中か、せめて木陰でしょ…」

「何か言ったあゝ？」

「いえ、何でもありません。」

一年たった今でも思わずツツコミたくなる、主任の熱中症患者の手当て。

熱いコンクリートに寝かせられて、私もよく死ななかったものだ。

「だって噴水のそばは涼しいと思ってさあゝ。」

「聞こえてるんじゃないですか！！」

意地悪。この人はおっとりしているようで、人をからかうのが好きなんだ。

絶対ドS！異論は認めません。

「今年は？」

「はい？」

「ちゃんとリングゴ以外の物も食べてるの？」

絶対ドS。

…のくせに、たまに優しいところがまた卑怯だと思う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1406m/>

雪恋し、夏の空

2010年10月8日22時56分発行